

TSWV抵抗性

ピーマン TSRさらら (L^3)



公益財団法人
園芸植物育種研究所
Institute for Horticultural Plant Breeding

ピーマン TSRさらら (L^3)

品種特性

- トマト黄化えそウイルス(TSWV)に対して抵抗性(T_{sw})がある、「さらら」タイプの中型濃緑果品種です。
- トウガラシ微斑ウイルス(PMMoV(P1.2))に対して抵抗性(L^3)があります。
- 「さらら」よりも若干の減収となります。
- 半促成栽培から夏秋栽培までの作型が、最も適しています。

栽培の要点

- 収量を上げるために、若苗定植や第3～4分枝までの摘蕾を行い、初期から草勢を確保するとともに、主枝はV字に仕立てて素直に伸ばし、側枝は2節目以降の強い枝を整枝して、主枝の草勢を保つことが大切です。
- 夏秋栽培では果実肥大が特に早いため土壌水分不足になりやすく、尻腐果発生リスクが高くなります。高温期には、1日あたりの灌水回数を増やしてください。
- 追肥は、収穫開始の時期から肥料切れにならないように、速効性の液肥等でこまめに複数回に分けて行うように心がけてください。
- 過繁茂は果色を薄くするので、ふところ枝や徒長枝を早めに除去して株全体に光が当たるように管理してください。

「TSRさらら」導入上の注意点

——— 「TSRさらら」の抵抗性を侵すTSWVが発生しています ———

- 「TSRさらら」を導入する場合は、指導機関で現在発生しているウイルスを検査してもらい、「TSRさらら」で抵抗性が発揮できるウイルスであることを確認してから導入してください。
- TSWVの伝染源となるハウス周辺の除草を行うと共に、媒介種であるアザミウマの防除を行ってください。
- 高温時は抵抗性が弱るため、ハウスの換気に注意して温度上昇を抑えてください。

◎ウイルスの疑わしい株が発生した場合は、すぐに抜き取って検査に出してください。あわせて、アザミウマの防除を徹底してください。



公益財団法人
園芸植物育種研究所
Institute for Horticultural Plant Breeding